

有終の藤坂観測所 27年後の幕引き

三重県旧大宮町に建設された藤坂観測所は、86年に開所し、有志が観測に使用してきました。しかし、ここ10年ほどはほとんど使用されることが無く荒れ放題になっていたところ、先日、土地貸借契約を解除して完全な幕引きとなりました。そこで、この機会に、藤坂観測所の歴史をまとめてみたいと思います。

1st 黎明

三重県松阪市にあった望遠鏡センター・アイベル(当時)に出入りしていた星仲間が定期的な観測会を行う緩やかな趣味集団として「三重アストロフォトクラブ」を作ったのは、84年10月のことでした。その後月1回の観測会を重ねるうち、ハレー彗星の話題が世間的にも盛り上がりを見せ始めた85年秋にN氏が大宮町藤坂地区に観測所適地を見つけ出してきました。N氏がどのような手管で話をつけてきたのか定かではありませんが、年15,000円でその土地を借りられることになり、15人の有志で10万円づつを出しあって観測所を立てる話がまとまりました。

2nd 建設

85年12月から観測所の建設にとりかかりましたが、なにぶんにも資金が不足していた(できるだけ機材のほうにお金を充てたい)ため、自分たちでできることはやろうということで、プロの力を借りながら、8畳間弱のスライディングルーフ式の観測所を完成させました。中には、2つの望遠鏡用の台座が置かれ、1基にはPentaxのMS-5にタカハシのε200、もう1基にはN氏のEM100(後にNJPに交代)が置かれ、当時としては、なかなかの機材をそろえることができました。

3rd 開所

記録によると開所式は86年3月9日となっています。地元の方にも集まっていたり、新聞の取材もあったりでとても盛大に行われました。景気づけに樽酒まで用意して、あれだけのお酒をどうやって消費したのか、どうも記憶がありません。そして3月21日夜(22日朝)には、広く呼びかけを行ってハレー彗星観望会が行われました。結構いろいろな方が訪れていただきましたが、残念ながら天候に恵まれず、彗星は見えず終いでした。後日談ながら、翌23日早朝は大晴れになって、自分ひとりで南天を渡っていくハレー彗星を堪能しました。こんな朝に限って、なんでみんな来なかったんだろう?と今でも思います。

4th 増殖

86年のGW頃から、藤坂観測所隣地にアイベルが土地を賃借して本格的なスライディングルーフ式の観測所を建設しました。中にはアスコの35cmニュートンが設置され、ゆったりした休憩室もあって、2つの観測所を併用することで、観測はすこぶる快適になりました。もちろん、アイベル観測所は一般のお客さんも観測に訪れ、月1回の定期的な観望会も開催されていましたが、うまく協力して運営をしてきました。

5th 躍進

仲間が集まって情報交換しながら技術を磨き、それぞれのメンバーがそれぞれの機材を生かして撮影した写真が天文雑誌のコンテスト面を飾りました。80年代末にはアストロフォトクラブ全体で、総入選数の数%を占めるという状況で、藤坂の機材も活躍しました。

6th 拡散

藤坂観測所は共同所有するプライベート観測所の先駆けでしたが、自由な観測を行うために個人で観測所を持つ動きが広がっていました。87年10月にはY氏とN氏が共同で藤坂観測所の近所に設置、90年1月にはN²氏がアイベル観測所の隣地に小型のスライディングルーフを設置、さらに92年1月にはN³氏が同じく隣地にN⁴氏の自宅ドームを譲り受けてやってきました。一方で、N⁵氏やN⁶氏が旧南勢町に、K氏やK'氏、N⁷氏が自宅に観測所を設けていきました。観測所の増加は全体の活動の活性化を促しますが、藤坂観測所の利用という点では、機材を積極的に使う人と情報交換や観望目的で使う方に別れるという状況が生まれ、管理上の支障も生じていきました。このようなことから、92年10月には運営をアストロフォトクラブから切り離し、藤坂観測所については機材を使用する者がオーナーとなって運営する方向に体制を刷新しました。

7th 崩壊

観測所はその後安定した利用がされていきましたが、建物の老朽化が徐々に進んでいきました。そして97年秋の台風で西側の壁面が崩壊してしまい、建物が使用不能となってしまいました。やむなく藤坂観測所は解体、機材も売却して98年10月に観測所のオーナー会は解散となりました。並行してアイベル観測所も機材を撤収することとなりましたが、観測場所としての機能は維持していく方針とし、建物を譲り受けて有志による運営体制に移行しました。

有終の藤坂観測所 27年後の幕引き2

8th 有終

据置き望遠鏡が無くとも、空の暗さは準1級でしたから、その後も観測ベースとしての利用が行われていきました。百武彗星の雄大な尾はとても印象的でしたし、2001年11月に仲間が集まって眺めたしし座流星群は最高の天文イベントでした。

しかし、しし群の観測以降、デジタルの台頭などを背景とした観測スタイルの変化もあり、藤坂の利用が基本的になくなっていきました。結局、草刈等の維持管理のみが負担となる状況もあり、土地所有者との相談の結果、建物を残したまま土地貸借を終了する方向

で協議が整いました。そして、去る6月23日に仲間最後の清掃作業を行い、契約の解除も完了して藤坂ミッションは完全に終了を迎えました。

観測所の開所から27年たち、ハレー彗星は海王星軌道の彼方に去っていきました。藤坂のメンバーも齢を重ね、観測所の建設に特に尽力されたN氏ら、残念なことにすでに星となられた方もみえます、あの頃とは皆の観測スタイルも変化して、時のうつろいを感じますが、藤坂での観測の日々は、とても良い経験を残しました。

おまけ・藤坂アルバム みんな若かったねえ



'86.1 基礎工事後の記念写真



'86.1 建屋の建設



'86.3 開所式典のスナップ



86.6 アイベル観測所の開所式



藤坂の主鏡 ε 200



藤坂観測所全景



'97.10 藤坂観測所の解体



'13.6 藤坂の近景 旧アイベル観測所

編集雑記

今月は、藤坂のことで紙面を使い尽くしてしまいました。もともと用意したネタは良い写真が撮れなかったこともあり、持越しです。

何かを始めるのはとても大変なことです、止めるのも馬力が必要です。藤坂の終了は長い間の懸案でしたが、

土地所有者の意向と皆の気持ちがあまく同期してうまく具合に進みました。それでも、良い思い出を残してきたミッションの終了は、一抹の寂しさを感じます。。

Kz_Wada 和田一人